

平成 27 年度事業報告(概要)

1. 事業計画

(1) 内容

学生の自主性、創造性を刺激することにより、勉学意欲の向上を図るため、学生自主企画による研究プロジェクトを公募し、選考されたものに対して、研究資金を助成する。その研究成果の発表会を開催し、理解の共有化を図る。

(2) 申請者

愛知県立大学生、同大学院生で構成された研究グループ(グループ内の学生の所属学部・学年は不問。できれば学部や学年が混在することが望ましい。)は、代表者を含む正規構成員(3 名～10 名)と協力者(0 名～人数制限なし)とする。同一人が、正規構成員として複数グループに属することはできない。本学専任教員 1 名の推薦が必要。推薦教員はその研究グループのアドバイザーに就任する。

(3) 研究テーマ

自由。ただし、授業での研究、個人の卒論・卒研・修論・博論と同一の研究、および、過去に採択された研究課題と同一のものは不可。

(4) 助成金額

最大 300 千円/件

(5) 助成件数

最大 10 件

(6) 採択方法

第一次審査 提出書類による。

第二次審査 第一次合格グループに対して公開ヒアリングを行い、選考委員会が決定。

(7) 研究期間

2015 年 6 月 1 日(月)から 2016 年 1 月 20 日(水)まで

(8) 研究成果公開

研究終了後、研究発表会を開催する。その後、レポートを製本し、学内外に配布する。

2. 経過

4 月中旬	公募説明会実施 (4/22, 4/23, 4/24) 33 名参加
4 月 16 日	募集要項公開
5 月 18 日	申込締切 申込件数 13 件
5 月 19 日	第一次審査 13 件を選考
5 月 20 日	第一次審査結果発表
5 月 27 日	公開ヒアリング

	13:00～15:30 (H004) 発表 7 分・質疑応答 2 分・交代 1 分 審査員：副学長、学部長、センター長 各審査員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の 5 基準を各 4 点で採点、合計 20 点満点で採点 <参加者 75 名>
5 月 29 日	審査結果をもとに、教育支援センター運営会議で原案を作った上で、最終選考を行い、10 件を採択。
5 月 29 日	第二次審査(最終)結果発表
6 月 3 日	採択グループに対する研究助成金取扱説明会 (学務課)
6 月 24 日	学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座開催 13:00～14:30 「社会調査入門」 亀井伸孝 准教授(国際関係学科)
10 月 14 日	中間発表会 13:00～15:20 (H005) 発表 8 分・質疑応答 3 分・交代 1 分 <参加者 70 名>
1 月 20 日	研究期間終了
1 月 20 日	研究発表会 13:00～16:00 (H005)、発表 12 分・質疑応答・2 分・交代 1 分 <参加者 95 名> 終了後、交流会・表彰式 ～17:00
1 月 22 日	実施報告書提出

3. 評価と課題

□本事業も 9 年目となり、募集開始から最後の研究発表会に到るまで、順調に進めることができた。

□応募要領の「審査基準」は、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」であること(ただし、単なる「活動」ではなく、「自主的な問題意識」を持って、何を明らかにし、そこから何を学び取ろうとしているか、が明確であること)、②実行可能性、③プレゼンテーションとし、この基準に従い、第一次審査、第二次審査(公開ヒアリング)を実施した。

また、昨年度と同様、採択され研究成果を発表したグループの中から、優秀なグループには研究テーマを記した学長名の賞状(金賞・銀賞)および副賞(図書カード)を授与することとした。

□過去5年間の応募件数、採択件数の推移は以下の通りである。

年度	応募件数	一次選考合格件数	採択件数
平成23年度	15件	12件	10件
平成24年度	10件	10件	10件
平成25年度	14件	14件	11件
平成26年度	13件	13件	10件
平成27年度	13件	13件	10件

□一次選考は書類選考とし、応募13件中13件を合格とした。審査は教育支援センター運営会議構成員が、①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②実行可能性の2項目について、条件を満足している場合は3点以上(5点満点)で採点し、評価の平均が6点以上のテーマを選出した。

□二次選考は公開ヒアリングとし、審査は募集要項に明託の3基準を基に①「研究」または「地域や社会に貢献する取り組み」、②「自主的な問題意識」、③研究計画、④予算の使い方と研究計画との関連、⑤プレゼンテーション、の5基準を各4点で採点、合計20点満点で審査員(副学長、学部長、センター長)が採点した。採点結果に基づき、10件の採択を決定した。

□学生自主企画研究関連講座・研究スキルアップ講座として採択されたグループの構成員を対象に、亀井伸孝准教授(国際関係学科)の「社会調査入門」を開催した。

□中間発表会は、参加者70名であった。ほとんどの研究グループが全プログラムを通して参加し、学生からも活発に質問が寄せられた。また、従来どおりコメント用紙を用意し、会場の参加者に各発表グループ宛にコメントを書いてもらい、後日各グループに渡した。

□研究発表会は95名の参加があり、いずれのグループもしっかり準備されたプレゼンテーションで、質疑も活発に行われた。

□採点は「研究内容」、「コンテンツ」、「プレゼンテーション」について、それぞれ5点の合計15点満点とした。採点資格は教職員は5グループ以上の発表を聞いた場合、学生は全グループを聞いた場合とした。なお、副学長、各学部長、各センター長の配点は2倍(30点満点)で計算し、得票数により金賞と銀賞を選出した。

賞	代表者	研究テーマ
金賞	倉島 芳彦 (人間発達学研究科)	長久手市内における「登下校見守り運動」の実態と課題に関する調査—子どもを中心とした地域づくりの拠点として—
銀賞	佐藤 遥 (国際関係学科)	インドネシア技能実習生の労働環境に関する研究

□研究発表会終了後、短い時間ではあるが、お茶とお菓子を用意して懇親会を行った(後援会からの支援を得た)。その間に金賞、銀賞を決定して発表を行い、副学長から賞状および副賞の図書カードが授与された。

4. 終わりに

本年度の学生自主企画研究には、学生から 13 件の応募があった。5 月の公開ヒアリングでは、学術的なものや、地域や環境に関する課題解決を目指したものなど、様々な研究計画のプレゼンテーションが行われた。審査の結果、本事業の趣旨に沿い、なおかつ成果が期待される 10 件が採択された。10 月の中間発表会では、教員からの質問やアドバイスに加え、参加した学生による活発な質疑応答が行われた。これは、自身の研究だけでなく、他の研究グループにも高い関心を持ち、切磋琢磨しようという姿勢の現れであるといえよう。1 月の研究発表会では、各グループが半年かけて取り組んできた研究成果が発表された。どのグループも、中間発表から着実に研究を進め、各段充実した内容であった。本年度の学生自主企画研究もレベルが高く、学生諸君の自主的な研究への熱意と課題解決に向けた努力の結晶であると評価できるものであった。

この学生自主企画研究は、本学の特色ある教育の取り組みのひとつとしてすでに定着しているが、最近では、学外からも注目され、新聞などのメディアに取り上げられるようになっていく。1 月に開催された研究発表会には、長久手市役所安心安全課の職員が来聴された。このように本事業が、学生グループへの研究取組の支援としてだけでなく、学生と地域が協働するきっかけとなる枠組みに成長していることは特筆すべきことである。また、最近では異なる学部にも所属する学生で構成されたグループや、外国人留学生の積極的な参加も増えてきている。今後も、本事業が本学のユニークな「魅力あふれる大学づくり関連事業」として一層発展するよう努めていきたい。

本事業を進めるにあたり、多くの方々のご支援、ご協力をいただきました。公開ヒアリング、中間発表会、研究発表会において、有益なアドバイスをしていただいた学長、副学長、学部長、センター長をはじめとする教員の皆様、スキルアップ講座の講師を務めてくださった亀井伸孝先生、発表会の司会を担当してくださった池田周副センター長に感謝します。また、本事業の実施には、多くの教職員の方々のご協力が不可欠です。とりわけ、事業全般を支えてくださった木下圭一郎学務部長代理、発表会場の準備を含め関連する様々な業務に携わってくださった杉浦秀一主任、加藤可純主事、高橋典子さんをはじめとする学務課の皆さんに深く感謝します。また、学生グループの研究実施にあたり、適切なお助言をくださった先生方のサポートがなければ、本事業の継続は不可能です。そして何よりも、自発的に本事業に応募し、学内外で様々な視点から自主的な研究に取り組んだ学生の皆さんのすばらしい成果に賛辞をおくります。

教育支援センター長 人見明宏